

事業所名 発達支援教室レツツ

支援プログラムのまとめ

作成日

2025 年

1月

6日

法人理念	より豊かな人生に								
事業所理念	一人ひとり まなびのカタチ								
支援方針	子どもたちが安心して、前向きに通つてこれる場所であることを第一に考えています。そのために、信頼関係の構築をとても重視しています。“わかる” “できる” が増える喜びや、“まなぶ楽しさ” を味わうことが、好きなものを見つけ出す力となり、豊かな将来へと繋がっていく。レツツが、そんなまなびの場の一つとなるよう、関係諸機関と連携しながら、子どもたちや保護者の方を支援していきたいと考えています。								
営業時間	月～金	13 時	30 分から	20 時	30 分まで	休業日	土・日・祝	送迎実施の有無	なし
	支 援 内 容							5領域を横断した支援の観点	
本人支援	健康・生活	着替え、生活動作、身近な道具、ピカピカ1年生、できるよ！せいかつ、楽器あそび、おやつ、お出かけ、さんぽ、レツツへの持ち物準備、身だしなみ、好きなことしらべ、入浴学習、余暇活動の幅を広げる、クッキング、皿洗い、手順のある作業、買い物学習、電車の利用、自力通所に向けて、そうじ洗濯、将来（進路）についてなど							支援の視点で捉えると、一つの支援内容は、複数領域の要素をもつ課題だと思います。買い物学習を例にすると、“何を買うか” “どこで買うか” “道中の安全意識” “お店での振る舞い” “目的のものを見つける” “お金の支払い” “かご、袋の扱い” 等といった観点に対して、5領域全ての要素で横断的に支援が必要であるといふことができます。
	運動・感覚	からだあそび、てあそび、形や位置を捉える、手指操作、ねんど・砂、感覚統合、唇と舌の体操、飛び石わたり、サーキット、ビジョントレーニング、机上作業、手先・ボディイメージ、バランスクッション、びかびかスイッチ、指・手・腕のストレッチ、ものづくりなど							左記のように、便宜上は分類をおこなっていますが、同じタイトルの取り組みだとしても、全員が同じ内容をおこなうということではありません。個別の課題に合わせて支援内容の組み立てをおこないます。
	認知・行動	絵本、運筆、パズル、タンграм、ひらがな、間違探し、めいろ、ぬりえ、玉ぞろばん、おはじき、図形描写、プラレール、トミカあそび、ブロックゲーム、かるた作り、くっつきことば、書字・文法・作文、日記、漢検、生活に身近な算数、パソコン、キーボードタイピング、実行機能能力など							
	言語 コミュニケーション	やりとりの心地よさ、伝わる楽しさ、はじまりの会・おわりの会、気持ちをととのえる、わかりやすく伝える、色々なできごとについて頭の整理、他者の気持を考える、なぞなぞ、フィギュアあそび、ごっこあそび、英語、ローマ字など							
	人間関係 社会性	やりとりあそび、あそびを通したSST、振り返りと次回に向けて、楽しいことを一緒にする、気持ちの整理、身近な場所しらべ、交通機関の利用、公共の場の利用、学校等の話の整理、アナログゲーム、人間関係・状況把握、自分の状況整理・行動の選択、楽しい余暇、興味を広げる、面接、スマホ、グループ電話、グループLINE、ステキな大人になるためになど							
家族支援		日々の生活上の課題解決や今後に向けての相談。 兄弟関係、親子関係に関する相談。 他の社会資源の紹介。		移行支援		小→中、中→高、高→色々（福祉事業所、大学、専門学校、就職等）と、それぞれのステージにおける選択肢の紹介や、それぞれへ向けての準備や課題などを共有。			
地域支援・地域連携		相談支援専門員、学校、教育委員会、市役所関係各課、福祉事業所などと必要に応じて情報共有や、連絡連携を実施。		職員の質の向上		法人研修、事業所研修、日々の教材研究、支援計画作成やモニタリング作成のための会議、利用者全員の情報共有会議などを通して実施。			
主な行事等		お楽しみイベント（年2回）、保護者会（年2回）、事業内容報告会（年1回）、代表による講演会（年1回）、避難訓練（年2回）							